



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)M本社ビル	階数	地上4F
建設地	札幌市中央区北2条東1丁目1-1 他	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	110 人
気候区分	1地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年2月1日
敷地面積	5,535 m ²	作成者	
建築面積	2,477 m ²	確認日	2016年2月1日
延床面積	4,923 m ²	確認者	

「配慮シート」に外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 全館LED化及び中央監視システムによる省エネルギー対策、耐震性能アップ及び自家発電機装備によるBCP対策を建設計画の柱とし熱源の半分に都市ガスを採用することでCO ₂ 削減を考慮		A 省エネルギー 全館LED化、中央監視システムによるエネルギーの見える化
B 省資源等 CO ₂ 削減を考慮して熱源の一部に都市ガスを採用	C 緑化 札幌市緑化基準をクリアー	D 雪処理 融雪槽の設置、及び主要なエリアにロードヒーティングを完備

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される